

〈翻訳〉

《ここへ来て見よ》  
——カール・ハインリヒ・グラウン (1703/04-1759)<sup>(1)</sup>による  
《大受難曲》のテキスト邦訳——  
**Passionsoratorium Kommt her und schaut Carl Heinrich  
Grauns (1703/04-1759): dessen Textübersetzung ins Japanisch**

田中 伸明

導入：楽天的な《大受難曲》？

——ヨハン・セバスチヤン・バッハ (1685-1750) の《マタイ受難曲》との  
比較を交えて——

C.H. グラウンによる受難オラトリオ《ここへ来て見よ》の手稿譜のいくつかは、おそらくその大規模なオーケストレーションと長大な演奏時間を理由として、《大受難曲 *Große Passion*》を作品名として伝承している<sup>(2)</sup>。同時代への影響力という点でもこの作品の存在が大きかったことは、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデルによるいくつかのアリアの自作品への転用<sup>(3)</sup>、また本作が数多くの筆写譜を通じて北ドイツ地域に広く知られていたことから窺い知ることが出来る<sup>(4)</sup>。1730年前後に、おそらくヴォルフエンビュッテルの教会において演奏することを目的として作曲されたこの《大受難曲》について本稿では、ほとんど同時期に作曲されながら、後に言及するとおり様々な意味において同作品と好対照を成している J.S. バッハの《マタイ受難曲》(1727年初演) との比較を交えた概説を行うことを試みる。

既に述べたとおり受難オラトリオ *Passionsoratorium* である本作は、自由詩を中心にそのテキストが構成されている。場面を物語る上で重要な聖書からの引用

は、4つの福音書から自由に、場合によってはパラフレーズされた上で行われている。これは、一定の福音書記事に基づいて物語を進行させ、その中に自由詩を含めるというテキスト構成を持つオラトリオ受難曲 *oratorische Passion* のためのリブレットとは、性格を異にしている。バッハの《マタイ受難曲》に代表されるオラトリオ受難曲は、《ここへ来て見よ》が成立した1730年頃には、受難オラトリオに比べ古い様式と認識されており<sup>(5)</sup>、作曲されることが徐々に少なくなっていた。グラウンの受難オラトリオは、本作だけに留まらず他の作品も筆写を通じ広く北ドイツ地域で受容されていたのに対し、バッハの「古いやり方で書かれた」オラトリオ受難曲は<sup>(6)</sup>、ライブツィヒ以外で演奏がなされることはなかったと考えられ、同時代の受難節に係る他の音楽に大きな影響を与えたとも言い難い。

本作品のリブレットの作者は、グラウンが宮廷副楽長を務めていたヴォルフェンビュッテル宮廷界限で活動していた詩人、もしくは詩作を得意とした聖職者であろうと推測されているが<sup>(7)</sup>、その実名も含め、具体的なことはほとんど把握されていない。リブレットはあわせて66のナンバーから構成されており、そのうち8つのコラール（第1、22、31、36、44、56、64、66曲）と13の福音書からの引用句（第17、19、23、32、37、39、42、45、47、50、53、57、59曲）を除く45のナンバーが、作者によるオリジナルの詩文をテキストとしている。冒頭コラールにおいて示された「神の酒ぶねを踏」み、衣を赤く染めた救世主という表象は、イザヤ書第63章第1節から第3節から採られており、その後のテキストにおいても支配的である（第5、6、16、55曲）。

「エドムから来るのは誰か。

ボツラから赤い衣をまとってくるのは。

その装いは威光に輝き、

勢い余って身を倒しているのは。」

「わたしは勝利を告げ

大いなる救いをもたらすもの。」

「なぜ、あなたの装いは赤く染まり  
衣は酒ぶねを踏む者のようなのか。」  
「わたしはただひとりで酒ぶねを踏んだ。  
諸国の民はだれひとりわたしに伴わなかった。  
わたしは怒りをもって彼らを踏みつけ  
憤りをもって彼らを踏み砕いた。  
それゆえ、わたしの衣は血を浴び私は着物を汚した<sup>(8)</sup>。」

コラールに続いて、本作品がイエスの受難を省察するものであることが合唱曲によって示された後、アルト独唱によるアリアが導入される。その後作品は、イエスが我々を救うために十字架の苦しみを受けなければならないこと、およびそれへの省察や感謝を、アリアやアリオソによってしばらく歌い上げる。具体的な受難の情景が現れるのは、エルサレムへの道行きを暗示する第15曲目のアリオソになってからで、福音書からの引用句の登場も、第17曲目のレチタティーヴォが最初である。このようなリブレットの展開は、大規模な合唱曲による導入の後、直ちに福音書の記事に移行し、その後も福音書の記述への音楽づけを中心としながら受難の情景を描いていくバッハの《マタイ受難曲》とは、大きく隔たっている。

リブレットにおける題材の取り扱いについても、両者の間には隔たりが見られる。前述のとおりバッハの《マタイ受難曲》は、マタイによる福音書の記事が中心となってリブレットが展開していくため、当該福音書において触れられている象徴的な出来事——香油が女に注がれる、ユダの裏切りと自殺、最後の晩餐、ゲツセマネでの祈り、ペテロの離反、ピラトからの尋問、十字架へのはりつけ、など——はどれも全てリブレットに登場する一方で、何かの題材に対してナンバーが重点的に割り当てられることは、基本的にない。一方でグラウンのオラトリオのリブレットは、一定の福音書に基づいて物語が進行するわけではないため、取り扱われる題材の選択には偏りが見られる。最後の晩餐（第25～31曲）とイエ

スの磔刑（第59～66曲）については、それぞれ7から8ものナンバーが割かれている一方で、イエスが香油を注がれたこと、ペテロの離反、ユダの自殺などに関しては、『ここへ来て見よ』で触れられることがない。

また、イエスの受難そのものに対する視点についても、両リブレットは隔たっている。バッハの《マタイ受難曲》における自由詩のテキストは、ハインリヒ・ミュラー（1631-1675）というルター正統派の神学者によって著された受難説教集から着想を得て作詞されていたことが、既に指摘されている<sup>(9)</sup>。彼ら正統派はイエスの十字架上的死を、人類の罪を代わりに背負ったことによるとし、その苦悩の結果として人間と神との和解がなされたとする教義を展開していた<sup>(10)</sup>。その影響のもとに成立したバッハの《マタイ受難曲》における自由詩のテキストは概して、イエスの受難の苦悩に寄り添う、共感的な姿勢で書かれているということが出来る。

グラウンのオラトリオのリブレットの中にも、私たちは確かにイエスの受難の苦悩への共感を読み取ることが出来る（第34、35曲）。だが、イエスの苦悩への共感に増してこのリブレットにおいて支配的であるのは、イエスの受難を通して人類が救われたことへの感謝であるといえる。イエスを遣わしてくれたことへの父なる神への感謝（第13、14曲）、新たな契約をもたらしてくれたことへの感謝（第25、26曲）が自由詩において歌われ、イエスの死の場面におけるコラールでは、十字架上での死をもって、人類を救済してくれたことへの感謝をその内容とするものが選択されている（第44曲）。また、グラウンが後年作曲した受難オラトリオ《イエスの死》（1755年初演）において見られる、弱き人々を慰め、護る「英雄」としてのイエス像も<sup>(11)</sup>、20年以上前に書かれたこのリブレットにおいて既にその姿を覗かせている（第5、59曲）。

バッハとグラウンの違い——すなわち、バッハの作品が受難に際してイエスが受けた苦悩に共感的であるのに対し、グラウンの作品はイエスが受難によってもたらしてくれた恩寵に対する感謝が支配的であるということ——は、ゲツセマネでの祈りを扱った音楽の比較を通して、より具体的に確認することが出来る。

イエスの一行はオリーフ山へと登り、イエスは震えおののきながら、「私の魂は悲しみのあまり死ぬほどだ」と語る。バッハの《マタイ受難曲》ではその後、ヘ短調のオーケストラ伴奏つきのレチタティーヴォが導入され、テノールが以下のようなテキストを歌い上げる（譜例1参照<sup>(12)</sup>）。

ああ 痛ましいこと！  
さいなまれた心がここで震えている。  
心はくずおれてゆき、  
御顔は青ざめてゆく！<sup>(13)</sup>

それに対してグラウンの《ここへ来て見よ》では、この場面の後、イエスの魂が悲しみに覆われなければならない理由を、私たちの犠牲になってくれたことに求める内容を歌う、ホ長調のアリアが導入される（譜例2参照<sup>(14)</sup>、第32、33曲）。

死に至るまで、イエスの魂は悲しみに覆われる、  
なぜなら罪と死、地獄の業火が彼の上に置かれたからだ、  
私たちの犠牲として。  
ああ、救い主が私たちを愛して下さらなかったら、  
私たちのうちの誰が、真の贖罪を為すのだろうか。

このような両者の違いはまた、アリアにおける調性選択に、端的に現れているといえるかもしれない。バッハの《マタイ受難曲》においては、長調で作曲されているアリアは全15曲中4曲に留まるのに対し、《ここへ来て見よ》では、全17曲のアリアのうち半数を超える10曲が長調で作曲されている。イエスを受難に追いやった人間の罪深さに目を向けるというよりも、彼の受難を通した神と人間との和解への感謝を歌うこの受難オラトリオには、本来的には善でありながら、時に弱さを見せてしまう人間という、理性への信頼に立脚した啓蒙主義的で、楽天

的ともいえる人間観が反映されているといえる<sup>(15)</sup>。

同時期に作曲されたこの両作品ではあったが、既に指摘した通り、同時代において広く受容されたのは、バッハの作品ではなくグラウンの《ここへ来て見よ》であった。1829年、フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ（1809-1847）によってバッハの《マタイ受難曲》が「蘇演」されるまで、カトリック圏である南ドイツ地域も含めたドイツ語圏で受難節によく上演された作品は、グラウンのもう1つの受難オラトリオである《イエスの死》であった<sup>(16)</sup>。だが《マタイ受難曲》の「再発見」以降、《イエスの死》は以前のように頻繁に演奏されることはなくなり、グラウンや彼の作品が顧みられることも少なくなった。今日における作品の受容状況は、およそ300年前と比べて全く反対になっているということが出来る。

18世紀後半の北ドイツにおける音楽については、ほぼ同時期にウィーン古典主義が確立されたという事情と関係して、後者に対して行われてきたほどには、研究が進められてこなかった。だが近年、特にベルリン・ジングアカデミーに所蔵されていた資料の「再発見」を一つの契機として<sup>(17)</sup>、ウィーン古典主義に連なる18世紀後半の南ドイツ＝オーストリアのみならず、北ドイツもまた、研究に値する豊かな音楽文化を保持していたことが明らかになりつつある。そこで「規範」とされていたのが、他ならぬグラウンの音楽であった<sup>(18)</sup>。本稿では以後、しばしば《大受難曲》の名と共に伝承され、グラウンの創作活動前期における代表作といえるこの受難オラトリオ《ここへ来て見よ》のテキスト邦訳を紹介する。

リブレットの翻訳は、現在唯一刊行されている本作品の楽譜において示されているテキストに従って行った<sup>(19)</sup>。ただし、この楽譜は日本において一般的な入手・閲覧が容易であるとはいえず、リレットそのものの入手も容易でないことから、本稿では翻訳とともに、ドイツ語原文も掲載することとした。テキストがある聖書の箇所をそのモチーフとしている場合、脚注でその引用元を示したが、それらはエルケ・アックスマッハーの判断による<sup>(20)</sup>。

翻訳は、字句の正確な移し替えではなく、詩文としての意味が正確に日本語に移り変わることにその目標をおいて行った。全ての箇所において実践できたわけではないが、なるべく原文の節と翻訳の節が一致するように試みた。また、指示代名詞がかなり多く使われ、そのまま訳すといびつな日本語になってしまう箇所——特に福音書からの引用場面——では、それらを実際の人物名に置き換えて訳すことを厭わなかった。最後に、《ここへ来て見よ》の録音で現在一般に流通し入手可能なものは、2009年にCPOレーベルから発売された、ヘルマン・マックス Hermann Max 指揮、ライニツシェ・カントライ Rheinische Kantorei およびダス・クライネ・コンツェルト Das Kleine Konzert 歌唱演奏による2枚組CDのみであることを指摘しておきたいと思う。

## 譜例1

18. Jesus

Stimme Mei-ne See-le ist be-trübt... bis an den Tod...

Orchester Streicher

blei-bet hie und wa-chet mit mir!

19. Tenor

Holzbläser O Schmerz! hier zit-tert das ge-quäl-te

Continuo

Chor Herz: wie sinkt es hin, wie bleicht sein An-ge-sicht! was ist die

譜例2

32. Adagio  
Tenor

Mei - ne See - le ist be - trübt, be - trübt bis in den Tod, be - trübt, be -

Continuo

trübt bis in den Tod.

33. Aria

Bis...

Orchester

in den Tod.

## 註

- (1) グラウンは、ヨハン・アドルフ・ハッセ（1699-1783）と並んで、18世紀中葉のドイツにおける代表的なイタリア・オペラの作曲家と見做されていた。1725年頃からブラウンシュヴァイク＝ヴォルフェンビュッテル公国の宮廷楽団で、テノール歌手として勤務を開始し、同時に精力的な作曲活動の展開を始めた。1735年頃までには楽団内で宮廷副楽長の地位を得ていたと考えられる一方、プロイセン皇太子フリードリヒ（1712-1786）の宮廷への招聘をその頃からしばしば受けるようになる。1740年、グラウンはフリードリヒの即位に伴ってプロイセン王国の宮廷楽長のポストに就任し、概ね1年に1作品のペースでオペラの作曲を行った。オペラの他にも多くのカンタータや器楽作品を残した一方で、死の数年前には受難オラトリオ《イエスの死》、《テ・デウム》（1757年初演）といった宗教作品にも取り組んだ。兄であるヨハン・ゴットリーブ・グラウン（1701/02-1771）は、プロイセンの宮廷楽団でコンサートマスターを務めていた。
- (2) Carl Heinrich Graun, *Kommt her und schaut*, hrsg. von Bernhard Schrammek, Beeskow 2007, S.IX-X.
- (3) ヘンデルのこの転用に関しては、1989年のヘンデル年鑑に所収された論文で詳しく検討されている。Vgl. Almuth Feltz, *G.F.Händels Entlehnung aus der „großen Passion“ von C.H.Graun. Ein Beitrag zu Händels Kompositionsweise in der Mitte der 1730er Jahre*, in: *Händel-Jahrbuch* 35 (1989), S.77-103.
- (4) Christoph Henzel, *Graun-Werkverzeichnis (GraunWV): Verzeichnis der Werke der Brüder Johann Gottlieb und Carl Heinrich Graun*, Band I, S.521-524.
- (5) 1712年に発表されたバルトルト・ハインリヒ・ブロッケス（1680-1747）によるリブレット『世の罪のために苦しみを受け、死にゆくイエス』は、その後ドイツ語圏において受難オラトリオが多く制作されるきっかけを作ったといえる。磯山雅『マタイ受難曲』、東京 1994年、51頁を参照。
- (6) J.S. バッハの息子であるカール・フィリップ・エマヌエル・バッハ（1714-1788）が、ハンブルクにおいて上演される受難曲のタイプを、手紙で照会した際に用いた表現。久保田慶一『バッハの四兄弟：歴史と現代に響く音楽』、東京 2015年、158-162頁を参照。
- (7) Vgl. Christoph Henzel, „Einleitung“, in: Carl Heinrich Graun, *Kommt her und schaut*, hrsg. von Bernhard Schrammek, Beeskow 2007, S.V-VI; S.V. ヘンツェルは、C.H. グラウンの《クリスマス・オラトリオ》と《復活祭オラトリオ》のリブレットも、同一人物によって書かれたと推測している。
- (8) 『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』、東京 2011年、(旧) 582頁。
- (9) 磯山『マタイ受難曲』、99-100頁。
- (10) Ingeborg König, *Studien zum Libretto des „Tod Jesu“ von Karl Wilhelm Ramler und Carl Heinrich Graun*, München 1972, S.47.
- (11) König, *Studien zum Libretto des „Tod Jesu“*, S.48.

- (12) Johann Sebastian Bach, *Matthäus Passion (BWV 244)*, hrsg. von Alfred Dürr, in: *Neue Bach-Ausgabe*, II/5, Kassel u.a. 1974, S.61-63. に基づく。ただし、強弱指示は譜例中に含まなかった。
- (13) 翻訳は、礪山『マタイ受難曲』、233頁より採った。
- (14) Carl Heinrich Graun, *Kommt her und schaut*, S.87-88. に基づく。譜例1の場合同様、強弱指示は譜例中に含まなかった。
- (15) Elke Axmacher, „Theologische Einführung in die „Große Passion“ von C.H.Graun“, in: Carl Heinrich Graun, *Kommt her und schaut*, S.VII-VIII; VII.
- (16) Herbert Lölkes, „Vorwort“, in: Carl Heinrich Graun, *Der Tod Jesu*, hrsg. von dems, Stuttgart 2003, S.4-7; 5-6.
- (17) 元来のジング・アカデミー附属の図書館は、第二次大戦中の空爆によって破壊され、戦後その所蔵資料も行方不明のままであったが、1990年代初頭、キエフにその多くがほとんど手つかずのまま保管されていることが明らかとなった。ウクライナ、ドイツ両政府間の協定を経て、2000年代初頭に資料の大部分はドイツに返還され、それらは現在、ベルリン国立図書館内に保管されている。Alex Fischer und Matthias Kornemann, „Mythen und Legenden: Die Restitution des Archivs der Sing-Akademie zu Berlin“, dies (Hrsg.), *Das Archiv der Sing-Akademie zu Berlin: Katalog*, Berlin u.a. 2010, S.111-115.
- (18) Christoph Henzel, „Berliner Klassik – ein Resümee“, in ders: *Berliner Klassik: Studien zur Graunüberlieferung im 18. Jahrhundert*, Beeskow 2009, S.361-380; S.371-377.
- (19) Carl Heinrich Graun, *Kommt her und schaut*, S.XIX-XXIV.
- (20) Vgl. Axmacher, „Theologische Einführung“, in: Carl Heinrich Graun, *Kommt her und schaut*, S.VII-VIII.

**Passionsoratorium *Kommt her und Schaut* (GraunWV B:VII:5)**

**Musik von Carl Heinrich Graun, der damals Vice-Kapellmeister im Hof August Wilhelms von Braunschweig-Wolfenbüttel war.**

**Libretto von einem unbekanntem Theologen, der wahrscheinlich aus dem Umkreis des Hofes war.**

**Text des Librettos****1. Choral**

Kommt her und schaut,  
kommt laßt uns doch von Herzen,  
betrachten Christi Leiden,  
Pein und Schmerzen,  
er tritt die Kelter Gottes, wie ich meine,  
wohl recht alleine.

**2. Coro**

*Ohne Tempoangabe, 4/4, in F-Dur/f-Moll.*

Lasset uns aufsehen auf Jesum,  
den Anfänger und Vollender des Glaubens,  
welcher, da er wohl hätte mögen Freude haben,  
erduldet er das Kreuz und achtet der Schade nicht.

**3. Aria**

*Adagio, 3/4, in F-Dur.*

Ich suche bebend meine Liebe,

## 受難オラトリオ《ここへ来て見よ》（GraunWV B:VII:5）

音楽：カール・ハインリヒ・グラウン、かつてのブラウンシュヴァイク＝ヴォルフェンビュッテル〔公爵〕アウグスト・ヴィルヘルムの宮廷副楽長。

リブレット：氏名不詳の、ブラウンシュヴァイク＝ヴォルフェンビュッテル宮廷界限で活動していた神学者。

### リブレットのテキスト

#### 1. コラール

ここへ来て見よ、

さあ心から

省みよう、キリストの悩み、

痛みと苦しみを。

彼は神の酒ぶねを踏んだ、私が信じたとおりに、

その方はただひとり正しい方であった〔のに〕<sup>(1)</sup>。

#### 2. 合唱

テンポ指定なし、4/4拍子、へ長調/へ短調。

さあイエスを仰ぎ見よう、

信仰の創始者にして完成者であるお方を、

そのお方は、喜びを味わいたかったかもしれないのに、

十字架を耐え忍び、恥を厭われなかった<sup>(2)</sup>。

#### 3. アリア（アルト）

アダージョ、3/4拍子、へ長調。

私は震えながら愛を探し求め、

und meines Glaubens reine Triebe  
 erwarten das verheine Licht.  
 Es kommt, ach nein? es kommt noch nicht.

Ich wnsche girrend den Erretter,  
 ich chze nach dem Schlangentreter,  
 der Fluch, Gesetz und Altar bricht.

#### **4. Arioso**

*Andante, 2/2, in C-Dur.*

Siehe, ich komme, im Buch ist von mir geschrieben.

#### **5. Accompagnato**

*Ohne Tempoangabe, 4/4*

Wer ist der, so von Edom kommt?  
 Bespritzt, besudelt, voller Wunden,  
 hat sich mein Heiland eingefunden,  
 der die Gerechtigkeit der Seele lehrt.  
 Ach, hchst vergngtes Wort,  
 der Herr hat mein Geschrei erhrt.  
 Ach, kommst du bald, mein Licht, mein Hort,  
 dies saget meinem Flehen,  
 es werde bald geschehen,  
 den Tag der Rache frzunehmen,  
 der Hllen Pforten zu bezhmen,  
 ach wann?  
 wer sagt mir deine Ankunft an?  
 Dies kann mein bldes Herz fr Schwachheit nicht verstehen,

私の信仰の穢れなき欲求は、  
約束されたその光を待ち望む。  
それはやって来るだろうか、ああ、違うのか？それはまだやってこない。  
私はもがきながら救世主を待ち望み、  
蛇〔の罨にかかった〕その方に対してうめく<sup>(3)</sup>、  
彼は呪縛を解き放ち、〔旧来の〕律法と祭壇を壊した。

#### 4. アリオソ（バス）

アンダンテ、2/2拍子、ハ長調。  
見よ、私はやって来る、私について本に書かれている〔とおりに〕<sup>(4)</sup>。

#### 5.〔レチタティーヴォ・〕アッコムパニヤート（テナー、バス）

テンポ指定なし、4/4拍子。  
彼は誰だろうか、あのようにエドムからやってくるのは<sup>(5)</sup>。  
泥を塗られ、汚され、傷だらけで  
私の救い主は姿を現された、  
彼は魂の正義を教えて下さるお方<sup>(6)</sup>。  
ああ、この上ない愉悦に満ちた言葉、  
主は私の叫びを聞いて下さった、  
ああ、あなたはすぐに来て下さるのですか、私の光、私の守護者たる方よ、  
嘆願致します、  
それはまもなく起こることでしょう、  
復讐の日がやってきて<sup>(7)</sup>、  
地獄の門〔への恐れを〕抑えなければなりません。  
ああ、いつなのですか？  
誰が私に、あなたの到着を告げてくれるのでしょうか。  
私の弱った心ではわかりません、

laß dich doch ohne Buche sehen.

## 6. Aria

*Largo, 3/4, in c-Moll.*

Wer will den bangen Zustand enden,  
der mich durchwühlet und verzehrt?

Wer ist der, so sich zu mir kehren?

Wer will den harten Streit vollenden,  
wer achtet nicht den Fersenschich,  
wer kommt, ach, wer errettet mich?

## 7. Arioso

*Ohne Tempoangabe, 2/2, g-Moll.*

Mein Knecht, der Gerechte, wird viel gerecht machen,  
denn er trägt ihre Sünde.

## 8. Recitativo

Mein Gott, so trägt ein Knecht  
von dem abtrünnigen Geschlecht  
Gesetze, Fluch, Zorn, Hölle, Sünden.

O nein,  
dies kann nicht sein,  
die Gottheit muß mich selbst entbinden.

## 9. Aria

*Larghetto, 2/2, d-Moll.*

Wer meinen strengen Schuldbrief schließt,

書〔から出て〕姿を現して下さい。

## 6. アリア（テナー）

ラルゴ、3/4拍子、ハ短調。

誰が終わらせてくれるのだろうか、

私の心をかき乱し、憔悴させるこの不安な状況を。

彼は誰だろうか、あのように私に向かってくるのは？

誰がこの激しい葛藤を終わらせてくれるのか、

誰があのかかとの痛みを気にとめないだろうか<sup>(8)</sup>、

誰が来てくれるのか、ああ、誰が私を救ってくれるのだろうか？

## 7. アリオソ（バス）

テンポ指定なし、2/2拍子、ト短調。

私の僕、正義の者が、多くの者を正しい者とするだろう、

なぜなら、彼は彼らの罪を背負うからである<sup>(9)</sup>。

## 8. レチタティーヴォ（ソプラノ）

我が神よ、こうしてひとりの僕が背負います、

不実な性欲、

律法、冒涇、怒り、地獄、罪を。

ああ違う、

こうあるべきではない、

〔だが〕神はこうして、私を生み出してくださった。

## 9. アリア（ソプラノ）

ラルゲット、2/2拍子、ニ短調。

私の厳しい罪状を終わらせ<sup>(10)</sup>、

wer das Geraubte wiederbringt,  
 aus welchem sich der Strom ergießt,  
 der in die Ewigkeiten dringt,  
 der muß Gott aus Gott selber sein.

Für ein unendliches Verbrechen  
 muß ein unendlich Opfer sprechen,  
 wo nicht, so bleibet Qual und Pein.

### **10. Quartetto**

*Ohne Tempoangabe, 2/2, B-Dur.*

Siehe, das ist Gottes Lamm,  
 das der Welt Sünde trägt.

Christe, du Lamm Gottes,  
 der du trägst die Sünde der Welt,  
 erbarm dich unser.

### **11. Aria**

*Cantabile, 3/4, g-Moll.*

Mit nassen, doch vergnügten Augen,  
 mit froher, doch beklemmter Brust,  
 mit Seufzen und zugleich mit Lust,  
 seh ich dich, wertes Opfer, stehen.

Mich tröstet, daß Du alle Last  
 mir Armen abgenommen hast,  
 mich quält, dich so gedrückt zu sehen.

再び取り戻してくれたお方、  
自身から流れが溢れ出て、  
永遠へと到達されたお方、  
その方こそ神からの神ご自身に他ならない<sup>(11)</sup>。

終わりのなき罪には  
終わりのなき犠牲が捧げられなければならない、  
それが無いところには、苦しみと痛みが残る。

#### 10. 四重唱（ソプラノ、アルト、テノール、バス）

テンポ指定なし、2/2拍子、変ロ長調。

見よ、あれが神の子羊だ、  
世界の罪を背負う<sup>(12)</sup>。

キリスト、神の子羊たるお方、  
世界の罪を背負って下さる方、  
私たちを憐れんで下さい。

#### 11. アリア（ソプラノ）

カンタービレ、3/4拍子、ト短調。

うるんだ、しかし愉悅に満ちた目で、  
幸せな、しかし締め付けられた胸中で、  
ため息と同時に喜びとともに、  
私は価値ある犠牲〔となられた〕あなたが立っているのを見えています。

私は慰められます、あなたは私の全ての労苦と  
貧しさを取り去って下さった、  
私は〔しかし〕苦しめられます、あなたがそのように抑圧されるのを見ると。

**12. Arioso***Ohne Tempoangabe, 4/4, G-Dur.*

Also ist geschrieben,  
und also mußte Christus leiden.

**13. Recitativo**

Ach ja, mein Heiland muß,  
denn dieses ist des Höchsten Schluß,  
der dadurch, was den Sünder fehlet,  
das allerbeste Mittel wählt.  
Mein Jesus muß,  
denn also ist's geschrieben,  
wär solches unterblieben,  
so würde der verdienten Pein  
kein Maß, kein Ziel, kein Ende sein,  
drum folgt mein Heil dem weisheitvollen Müssen  
und will, so wie geschrieben stehet, büßen.

**14. Aria***Dolce, 6/8, D-Dur.*

Mein Gott, dein unerschöpftes Lieben  
hat dich zu diesem Schluß getrieben,  
mein Sohn muß ihr Erlöser sein.

Mein Jesus folget deinem Willen,  
um dieses Müssen zu erfüllen,  
dringt es sich zu dem Opferstein.

## 12. アリオーソ（テノール）

テンポ指定なし、4/4拍子、ト長調。

こうして書かれた通りに、

キリストは苦しまなければならない<sup>(13)</sup>。

## 13. レチタティーヴォ（アルト）

ああその通り、私の救世主は〔苦しまなければ〕ならない、

なぜならその至高な結末は、

罪ある人に欠けていたものを背負う、

最良の仲介者を選んだからである。

私のイエスは〔苦しまなければ〕ならない、

なぜなら書かれている通りに、

もしそれが成されないままならば、

〔彼が〕受けた苦痛は、

範にも、目的にも、終結にもならなくなってしまうだろう、

それゆえに私の救世主は、思慮に満ちた必然に従い、

書かれている通りに、贖罪をすることになるだろう。

## 14. アリア（アルト）

ドルチェ、6/8拍子、ニ長調。

我が神よ、あなたの尽きることなき愛が

この終結をもたらして下さいました、

「私の息子を、お前たちの救世主としよう。」

私のイエスはあなたの意志に従います、

この必然を成就させるために、

〔彼は〕自らを犠牲へと追いやるのです。

## 15. Arioso

*Andante, 3/4, a-Moll.*

Sehet, wir gehen hinauf gen Jerusalem,  
und es wird alles vollendet werden,  
was geschrieben stehet durch die Propheten  
von des Menschensohn.

## 16. Accompagnato

*Adagio, 2/2.*

Ihr Seufzende, ihr Schüchterne der Erden,  
kommt mit, folgt Jesu zitternd nach,  
er gehet, und sucht eure Schmach,  
er will das letzte Opfer werden,  
er geht, er eilt, er flieht,  
seht, wie ihn unsre Not und sein Erbarmen zieht.

*Arioso:*

Ein redend Opfer anzuzünden,  
für des erzürnten Vaters Thron,  
Gott und die Menschen zu verbinden,  
geht Gottes und des Menschen Sohn.

Ja, ja, er geht.

er will vollenden, was von ihm aufgezeichnet steht,  
er geht, mit Kämpfen, Wachen, Beten  
die Kelter des Gerichts zu treten,  
folgt mir mit nasser Wallung anzusehen,

## 15. アリオートソ（バス）

アンダンテ、3/4拍子、イ短調。

見よ、私たちはイエルサレムのほうへ登ってゆく、  
そして全てのことが成し遂げられるだろう、  
人の子について、預言の書に  
書かれている通りに<sup>(14)</sup>。

## 16.〔レチタティーヴォ・〕アツコンパニヤート（アルト）

アダージョ、2/2拍子。

ああ、嘆き怯えているお前たち地上の者よ、  
共に来て、おののきながらイエスのあとに従いなさい、  
彼は往き、お前たちの不名誉を探している、  
彼は最後の犠牲となるつもりなのだ、  
彼は往き、急ぎ、消え往く、  
見よ、どのように彼が私たちの苦境を救い、憐れみをもたらすかを。

アリオートソ：

約束された犠牲を燃え立たせるため、  
怒る父〔なる神〕の玉座のため、  
神と人とを結ぶために、  
神と人の子が往く。

そうだ、彼は往く。

彼は全てを成し遂げるつもりだ、彼について書き留められたことを。  
彼は往く、戦い、警戒し、祈りながら、  
裁きの酒ぶねを踏むために<sup>(15)</sup>。  
ついて来なさい、涙の道行きとともに、

was zu Jerusalem mit Jesu wird geschehen.

### **17. Recitativo**

Und die Hohenpriester und Schriftgelehrten suchten,  
wie sie ihn mit List griffen und töteten.

### **18. Aria**

*Poco allegro, 2/2, A-Dur.*

Ihr Jünger Jesu, lernt die Tücke,  
die Satan und sein Haufe hegt,  
seht wie er die geflochtne Stricke  
zu Jesu Fall beachtsam legt.

Bewundert nicht, wenn sein Verstellen,  
euch sucht auf gleiche Art zu fällen  
und euch mit stiller Bosheit schlägt.

### **19. Recitativo**

Und Judas Ischarioth, einer von den Zwölfen,  
ging hin zu den Hohepriestern, daß er ihn verrite.

### **20. Recitativo**

Ein schnöder Trieb nimmt Jesu Jünger ein,  
der Geiz entflammt den Geist,  
durchdringet Mark und Bein,  
ein schändlicher Gewinn von dreißig Silberlingen,  
bestürmt die Treu und sucht die Liebe zu bezwingen.  
Er siegt, o rasendes Gemüt,

イエルサレムの地で、何がイエスによってなされるかを見るために。

### 17. レチタティーヴォ(テナー)

そして祭司長たちと律法学者たちは考えた、  
どうやって彼を策略によって攻撃し、殺すかを。

### 18. アリア (バス)

ポーコ・アレグロ、2/2、イ長調。  
お前たち兄弟よ、イエスは知った、  
サタンとその取り巻きたちが心の中に抱いた策略を。  
見よ、どのように彼がその編まれた縄に  
イエスを注意深く陥れたのかを。  
驚くな、彼の欺瞞が  
同じ方法で陥れようとお前たちをさがし、  
静かな悪意を持って、お前たちを打とうとしたとしても。

### 19. レチタティーヴォ(テナー)

そして十二使徒のひとり、イスカリオテのユダは  
祭司長のもとへと行った、イエスを密告するために。

### 20. レチタティーヴォ(ソプラノ)

ある恥ずべき衝動がイエスの弟子を捉えた、  
その貪欲さは心を燃え立たせ、  
骨身に染み渡る。  
銀貨30枚の恥ずべき勝利は、  
信義を襲い、愛を屈服させようとしている。  
おお狂気じみた怒り、彼は〔だが〕勝利する、

umstrickt dich keine Furcht,  
stockt dir nicht das Geblüt,  
erstarrt dich nicht der Mund,  
bei dem, was er verspricht,  
du Bösewicht,  
klebt dir die Zunge nicht der durchbrannten Gaum`,  
vertrocknet nicht der Schaum,  
der durch die tolle Lippen dringt?  
Ach, sage, Mörder, was dich zwingt,  
den Meister zu entdecken  
und dieses Bubenstück und Schandtät zu vollstrecken.

## **21. Aria**

*Ohne Tempoangabe, 2/4, a-Moll.*

Ein Geist, in dem der Geldgeiz keimet,  
der vor Begierde wachend träumet,  
wird Satans Netze nicht entfliehn.

Des Mammons Vorrat lockt uns immer,  
um durch schmeichlerischen Schimmer,  
die Seele in den Tod zu ziehn.

## **22. Choral**

Die Lust des Fleisches dämpft in mir,  
daß sie nicht überwinde,  
rechtschaffne Lust und Lieb zu dir,  
in meiner Seel anzünde,  
daß ich in Not

いかなる恐れもお前を取り込まず、  
生来のものもお前を止められず、  
口はこわばらない、  
その口で、イエスと約束をしたと言うのに。  
おお悪魔よ、  
お前の舌は〔裏切りへ〕熱く燃えた口を閉じさせない。  
ひからびてしまったのか、  
〔かつてイエスの〕高貴な口よりもたらされたその泡は。  
ああ言え、殺人者よ、何がお前をそうさせたのだ、  
師を見つけ出し、  
このような悪行と恥ずべき行為をなすとは。

## 21. アリア（アルト）

テンポ指定なし、2/4拍子、イ短調。

金への貪欲が芽生えた心は、  
欲望を前に絶えず夢想し、  
サタンの網から逃れられない。  
富の蓄えは私たちを常に誘惑する、  
へつらった軽薄さによって、  
魂を死へと引きずり込むために。

## 22. コラール

肉の喜びが私の中に沸き起こります、  
私の魂の中で燃え上がったそれは〔しかし〕  
あなたへの克服された、  
公正な喜びと愛ではありません。  
苦境の時から

bis in den Tod  
dich und dein Word bekenne  
und mich kein Trutz  
noch Eigennutz  
von deiner Wahrheit trenne.

### **23. Recitativo**

Da sie das hörten, wurden sie froh  
und verhiessen ihm das Geld zu geben,  
und er suchte, wie er ihn füglich verriethe.

### **24. Recitativo**

Man sinnt auf Jesu Fall und Tod,  
die Bosheit darf sich nicht verkleiden,  
mein Jesus kommt zu seinem Leiden,  
er weicht nicht der ausgedachten Not,  
er geht der List entgegen,  
doch ehe sich das Leben von ihm trennt,  
will er sein Testament  
der ganzen Welt für Augen legen,  
er nimmt das Brot  
und auch den Wein,  
das Manna der entkräfteten Seelen,  
damit sie sich nicht sollten quälen,  
als würde nach dem Tod  
das Heil nicht uns zugegen sein,  
setzt er sein Testament mit diesen Worten ein.

死に至る時まで

私はあなたとあなたの言葉を〔義と〕認め、

反逆や

私欲が

私をあなたの真理から遠ざけることはありません。

### 23. レチタティーヴォ(テナー)

祭司長はそれを聞くと喜んで、

ユダにお金を与えることを約束した。

そして彼は、どのようにイエスをうまく密告するかを考えた。

### 24. レチタティーヴォ(テナー)

人はイエスを陥れ死へ追いやろうと企む、

その悪意は装われてはならない、

私のイエスは苦しみへと往かれる、

彼は考えられる苦しみを避けるのではなく、

〔むしろ〕策略へと向かっていく、

生に別れを告げなければならないが、

それでも彼は、彼の契約を

世界へ知らしめようとする、

彼はパンと

ワインをとる、

それは弱りきった魂への、神からの贈り物。

それによって彼らはもう、苦しめられることがない、

死後に幸福が

私たちの側になかったとしても、

イエスが彼の契約を、この言葉とともに置いてくださる。

**25. Duetto***Adagio, 2/2, G-Dur.*

Das ist mein Leib, das ist mein Blut,  
 Ach, wie hungert mein Gemüte,  
 Menschenfreund, nach Deiner Güte.  
 kommt, nehmet, esset,  
 Ach, wie pfleg ich oft mit Tränen,  
 mich nach dieser Kost zu sehnen,  
 trinkt dieses Blut,  
 ach, wie pfleget mich zu dürsten,  
 nach dem Trank des Lebensfürsten,  
 damit ihr meiner nicht vergesset.  
 wünsche stets, daß mein Gebeine  
 mich mit Gott durch Gott vereine.

**26. Aria***Andante, 2/2, C-Dur.*

Bedrängte Seele, laß dein Weinen,  
 dein Lebenslicht  
 verläßt dich nicht,  
 die Sonne wird beständig scheinen.  
 Mit, in und unter Brot und Wein  
 wird sie dir stets zugegen sein,  
 der Herr verläset nicht die Seinen.

**27. Recitativo**

Nun ist mir Jesus stets zur Seiten,

## 25. 二重唱（ソプラノ、バス）

アダージョ、2/2拍子、ト長調。

これは私の体、これは私の血、

ああ、私の心と

友愛が、どれほどあなたの好意を心待ちにしたことでしょうか。

来て、取って、食べなさい

ああ、私はどれほど度々、涙を流さなければならなかったでしょうか、  
この糧にあこがれて。

この血を飲みなさい、

ああ、私はどれほど渇かなければならなかったでしょうか、  
浮世の杯を飲み干したあとには。

こうすればお前たちは、私を忘れることがない。

常に望んでいます、私の肉体が

神と共に、神を通して一体となることを。

## 26. アリア（ソプラノ）

アンダンテ、2/2拍子、ハ長調。

押しつぶされた魂よ、泣くのをやめよ、

お前の生のともし火は、

お前のことを見捨てていない、

太陽は、たえず輝きつづけるだろう。

パンとワインとによって、

その太陽は常に、お前のそばにいるだろう。

主は、彼の息子たちをお見捨てにならなかった。

## 27. レチタティーヴォ（アルト、テナー）

今やイエスは常に、私の側にいてくださる。

und wo und wie?

Im Brot und Wein.

Dies scheint mit sich selbst zu streiten.

Soll Jesus mit sich uneins sein?

Der Heiland gibt dir nur ein Zeichen.

Ein Testament hat keine Zeichen nicht.

So willst Du nicht von denen Worten weichen.

Ich glaube, was ein Sterbender, noch mehr, was Jesus spricht.

Der Leib war ja noch nicht gebrochen,  
und die Vergießung war noch nicht geschehn.

Und doch hat Jesus so gesprochen,  
der deinen Einwurf längst vorausgesehn.

## 28. Duetto

*Ohne Tempoangabe, 3/4, F-Dur.*

Mein armer Geist gibt sich gefangen,

Mein froher Geist kann siegend prangen,  
mein Grübeln fällt, mein Einwurf bricht.

mein Glaube steht und scheitert nicht.

Ach folge mir, du mußt das tolle Deuten lassen

Ich folge dir, ich will das tolle Deuten lassen

und Jesu Wort in Einfalt fassen

und Jesu Wort in Einfalt fassen,

das dir den Leib im Brot, das Blut im Wein verspricht.

das mir den Leib im Brot, das Blut im Wein verspricht.

どこに、どうやって？

パンとワインとによって。

それは彼が自らと争っているように見える。

イエスはご自身と不和であるというのか？

救い主はお前に、ただ一つのしるしを与える。

契約こそ、そのしるしに他ならない。

お前はでは、その言葉に屈するのだな。

私はイエスよりも、あるひとりの死者のほうが多くを語っていると信じる。

肉体はまだ消え去らず、

杯もまだ満ちていないではないか。

イエスはしかしそのように〔契約を〕語られた、

彼はお前の反論を、とっくに予見されていたのだ。

## 28. 二重唱（アルト、テナー）

テンポ指定なし、3/4拍子、へ長調。

私の貧しき魂は屈服した、

私の喜ばしい魂は勝利を得て光り輝く、

私の思慮は沈み、反論は砕けた。

私の信仰は確立し、躓くことがない。

ついてきなさい、お前は善き存在になり、

ついていきます、私は善き存在になり、

イエスの言葉を純粹に受け取らねばならない。

イエスの言葉を純粹に受け取りたい。

肉体をパンとして、血をワインとしてお前に約束して下さる。

肉体をパンとして、血をワインとして私に約束して下さる。

**29. Coro***Adagio – alla breve, 3/4 – 2/2, a-Moll.*

Christus ist durch sein eigen Blut einmal in das Heilige eingegangen  
und hat eine ewige Erlösung erfunden.

**30. Recitativo**

O Ewigkeit, unaufgelöstes Wort,  
wo niemand einen Ausgang findet,  
das, wenn man auf die Deutung denkt,  
Vernunft, Verstand und Grübeln bindet.  
Ihr kurzen Silben, die ich nicht versteh,  
und dennoch euer lange Wirkung seh,  
wie oft habt ihr mich in mich selbst versenkt.  
Ihr seid nicht schwer und leichtlich auszusprechen.  
Wer aber ist geschickt, euch zu entsiegeln und zu brechen?  
Doch Jesus kommt aus denen Ewigkeiten,  
um in ein ewig Heiligtum zu gehen,  
und durch sein ewig Blut  
ein ewig Opfergut  
für alle Menschen zu bereiten.  
O angenehmer Löw aus Juda Stamm,  
du in den Ewigkeiten schon,  
mein Glaub allein versteht den Ton,  
für mich und aller Welt erwürgtes Lamm,  
du hast, was ewig heißt, geöffnet und verschlossen,  
da dein verdienstlich Blut in Zeit, in Ewigkeit geflossen.

## 29. 合唱

アダージョーアラ・ブレーヴェ、3/4拍子—2/2拍子、イ短調。

キリストは自らの血を通して聖なるものとなられ、

永遠の救いをもたらされた<sup>(16)</sup>。

## 30. レチタティーヴォ(テナー)

おお永遠、解き難き言葉よ、

誰も出口を見出せないところに、

その意味を解こうと試みると、

その言葉は分別、理性、熟慮と結びついている。

私はお前たちがわからない、短き音節たちよ、

それにも関わらず私は、お前たちの長き〔に渡る〕影響を見る、

お前たちはどれほど度々、私自身の中に潜在していたことだろう。

口にすることは難しくなく、容易い。

お前たちの秘密を暴き、砕くために遣わされたのはしかし、誰であったか？

まさにイエスこそがこの永遠から来られた、

聖なる〔父の国〕へと行くために、

そして彼の永遠の血を通して

永遠の犠牲を

全ての人々に供するために。

おお、ユダより出でし愛すべき獅子よ、

あなたは既に永遠の中においでです、

ただ私の信仰だけが、〔永遠という〕響きを理解します、

私と世の全てのために屠られし子羊よ、

あなたは永遠と呼ばれるものを開き、またそれに鍵をしました、

あなたの功績多き血が時の中に、また永遠の中に流れ出るようになったからです。

**31. Choral**

O Wunder ohne Maßen,  
 wenn man`s betrachtet recht,  
 es hat sich martern lassen  
 der Herr für seine Knecht.  
 Es hat sich selbst der ewge Gott  
 für mich verlornen Menschen  
 gegeben in den Tod.

**32. Recitativo**

Und da sie den Lobgesang gesprochen hatten,  
 gingen sie hinaus an den Ölberg,  
 und er nahm zu sich Petrum, Jacobum und Johannem  
 und fing an zu zittern und zu zagen und sprach:  
 meine Seele ist betrübt bis in den Tod.

**33. Aria**

*Ohne Tempoangabe, 3/4, E-Dur.*

Bis in den Tod ist Jesus Geist betrübt,  
 weil Sünde, Tod und Hölle Glut  
 auf ihm als unser Opfer ruht.

Ach, wie hat uns der Heiland nicht geliebt,  
 wer aber ist von uns, der rechte Buße übet.

**34. Accompagnato**

*Adagio e staccato, 2/2.*

Was muß ich hier erblicken,

### 31. コラール

おお際限なき驚き、  
正しく捉えていれば、  
責め苛まれている、  
主が僕のために。  
永遠の神自らが  
私のために敗れられ、  
人々が〔彼を〕死に追いやる。

### 32. レチタティーヴォ(テナー)

一行は賛歌を歌った後、  
オリーヴ山へと登った。  
イエスはペトロ、ヤコブとヨハネを近くへ呼び、  
震えおののき始めて、言った。  
「私の魂は、死に至るまで悲しみに覆われる。」

### 33. アリア (テナー)

テンポ指定なし、3/4拍子、ホ長調。  
死に至るまで、イエスの魂は悲しみに覆われる、  
なぜなら罪と死、地獄の業火が彼の上に置かれたからだ、  
私たちの犠牲として。  
ああ、救い主が私たちを愛して下さらなかつたら、  
私たちのうちの誰が、真の贖罪を為すのだろうか。

### 34.〔レチタティーヴォ・〕アツコンパニヤート (ソプラノ)

アダージョ・エ・スタッカート、2/2拍子。  
ここで何に目を留めるべきだろうか、

mein Herz springt für Angst in Stücken.  
Ah, Jesus kämpft und ringt,  
der Schweiß, der durch die Glieder dringt,  
verändert die Natur und wird ein dickes Blut.  
Ach, wie der Heiland bei der höllengleichen Glut  
klagt, wimmert, zittert, ächzet,  
die Zunge klebt ihm an dem Gaum',  
sein Haupt ist voller kalten Schaum,  
das Hertze klopft, die matte Seele lechzet,  
ein röchlendes Getön erfüllt die Brust,  
die Luft vergeht der ausgezehrten Lunge.  
Die Hölle brüllt, sie öffnet ihren Schuld,  
die Schlange zischt und spitzet die verdammte Zunge.  
Wie zaget meines Jesu Mund.  
Er winselt, ach, er sinket, er liegt, er kümmert sich auf der Erden,  
hier muß ein Stein erweicht, ein Felsen fließend werden.

### **35. Aria**

*Adagio assai, 2/2, D-Dur.*

Brecht, ihr felsengleiche Herzen,  
hier bei meines Heilands Schmerzen,  
wimmert, weil mein Jesus stöhnt.  
Zittert, ihr verstockten Sünder,  
schwitzt Blut, ihr Menschenkinder  
heut, weil meine Liebe trânt.

私の心はあらゆる面で、恐怖のために裂けてしまう、  
ああ、イエスは戦い奮闘する、  
四肢を流れるその汗は、  
自然を変えて、濃い血となる。  
ああ、地獄のような灼熱に接して  
救世主はどれほど嘆き、泣き、震え、呻いていることだろう。  
彼の喉は渇き、  
頭は冷えきり、  
心臓は脈打ち、弱った魂は疲れきっている、  
あえぎが胸を満たし、  
空気は疲れきった胸をすり抜ける。  
地獄はうなり、口を開ける、  
蛇はシューと音をたて、忌々しい舌を突き出す。  
私のイエスの口は、どれほどおののいていることだろう、  
彼は泣き、ああ、彼は衰え、横たわり、地面に屈み込む、  
ここでは石は柔らかく、岩は溶かされなければならない。

### 35. アリア（ソプラノ）

アダージョ・アッサイ、2/2拍子、ニ長調。  
砕けよ、岩のように〔硬き〕心よ、  
我が救世主の痛みに寄り添って  
泣くがいい、私のイエスは苦しみ呻いているのだから。  
震えよ、かたくなな罪人たち、  
血を流せ、今日こそお前たち人の子らよ、  
私の愛する〔イエス〕が泣いておられるのだから。

**36. Choral**

Laß deiner Seelen Höllen Qual,  
 dein Blut geron'nes Schwitzen,  
 und übrig Elend allzumal,  
 darin du mußtest sitzen,  
 mir offermalen fallen ein  
 und eine starke Warnung sein  
 für mehrer Missetaten.

**37. Recitativo**

Es war aber sein Schweiß wie Blutstropfen,  
 die fielen auf die Erde.

**38. Aria**

*Dolce, 6/8, A-Dur.*

Tauet, purpurfarbne Tropfen,  
 netzet die erkaufte Seele,  
 wann ich für der dürrn Höhle  
 der Verwesung werde stehn.

Wenn die letzten Boten klopfen,  
 so will ich durch Jesu Wunden,  
 welche die Erlösung funden,  
 in das Heiligtum eingehn.

**39. Recitativo**

Und Judas, der Zwölfen einer, kam  
 und mit ihm eine große Schar,

### 36. コラール

魂たちがあなたの地獄の苦しみ〔の中に身を置く〕、  
あなたの血は流れる汗のよう、  
あらゆる不幸の中に  
あなたは身を置かねばなりません、  
〔その不幸は〕時に私にもやってきて、  
あらゆる悪行への  
強い警告となる。

### 37. レチタティーヴォ(テナー)

地に滴り落ちた彼の汗は、  
血の雫の様であった。

### 38. アリア (テナー)

ドルチェ、6/8拍子、イ長調。  
滴れ、穢れなき雫よ、  
犠牲となった魂を潤せ、  
私が死滅の渴いた洞穴のまえに  
立つであろう時に。  
最後の使者がやってくるとき、  
私はイエスの傷、  
救済をもたらしたそれを通して、  
聖なる国へと行くつもりだ。

### 39. レチタティーヴォ(テナー)

十二使徒の一人であるユダがやってきて、  
彼とともに祭司長たちと民の長老たちの〔手先である〕群衆〔も〕、

mit Schwertern und mit Stangen,  
von den Hohenpriestern und Ältesten des Volks,  
die Schar aber und der Oberhauptmann  
und die Diener der Juden  
nahmen Jesum und bunden Ihn.

#### **40. Recitativo**

Mit Schwertern und mit Stangen,  
sind diese Mörder ausgegangen,  
die Unschuld zu belauern und zu fangen,  
der Hauptmann tobt mit halbentkräftten Schnauben,  
daß er den matten Jesum noch nicht finden kann,  
um ihn der Freiheit zu berauben,  
die Schar durchläuft mit kurzem Atemholen den Garten,  
sie durchsuchet jeden Ort,  
damit des Hohenpriesters Wort,  
das er aus Neid befohlen,  
nicht ohne Wirkung sei,  
die Finsternus, die fürchterliche Nacht,  
die alles schüchtern macht,  
kann diese Bösen nicht erschrecken;  
was muß ich hier entdecken,  
die Bosheit trifft die Unschuld an,  
der Jünger nahet sich mit seinen falschen Lippen,  
und machet sie zu Klippen,  
woran der Meister scheitern soll,  
die Grausamkeit wird toll,

剣や棍棒とともに  
やってきた。  
その群衆と千人隊長、  
そしてユダヤ人の僕たちは  
イエスを捕らえ、縄へとつないだ。

#### 40. レチタティーヴォ(ソプラノ)

剣と棍棒と共に、  
その殺人者どもは動き出した、  
罪なき〔イエス〕を待ち伏せ、捕らえるために。  
千人隊長は半ば疲れきった荒い鼻息をしながら怒り狂う、  
弱ったイエスを彼はまだ見つけることが出来ていない〔が〕、  
イエスから自由を奪うつもりだ。  
群衆は息を切らして庭を走り抜ける、  
彼らはあらゆる場所をくまなく探す、  
祭司長の言葉、  
〔彼が〕ねたみから命じたそれが、  
何ももたらさないとはいないだろう。  
暗黒、恐ろしい夜、  
全てを臆病にさせるものは、  
この悪に驚くことができない。  
私がここで気づかねばならないことは、  
悪が罪なきものと出会い、  
弟子が誤った口づけによって近づき、  
罪なきものが躓き、  
それによって師〔イエス〕が破滅しなければならなかったということだ。  
〔悪の〕残忍さは勢いを増す、

sie bindet die Gedult,  
 sie fesselt die schon halb erstarrten Glieder,  
 sie reißet Jesum nieder.  
 Warum? Ach, schweig, um deine Schuld.

#### **41. Aria**

*Andante, 2/2, B-Dur.*

Meine Schulden sind die Bande,  
 meine Schande  
 ist das Seil, das ihn umstrickt.

Darum schleppt mein Heil die Ketten,  
 mich zu retten  
 von der Bürde, die mich drückt.

#### **42. Recitativo**

Aber die Jesum gegriffen hatten,  
 führten Ihn zu dem Hohenpriester Caiphas,  
 die Hohenpriester aber und Ältesten und der ganze Rat  
 suchten falsche Zeugnis wider Jesum, auf daß sie ihn töteten.

#### **43. Recitativo**

Brecht nur, entmenschte Richter,  
 den schon geknickten Urteilsstab entzwei,  
 doch denkt dabei,  
 daß euer Fall vorhaben sei.  
 Ich seh, daß Ihr durch dieses Brechen  
 euch selbst das Urteil wollet sprechen.

それは忍耐を強い、  
既に半ば硬直した肉体を縛り、  
イエスを引き倒す。  
何故だ？ ああ、黙れ、お前のその罪ゆえに。

#### 41. アリア（ソプラノ）

アンダンテ、2/2拍子、変ロ長調。  
私の罪はその縄、  
私の恥は  
彼を捕らえたその縄。  
それゆえに我が救い主は鎖を曳く、  
私を押しつぶす重荷から  
救うために。

#### 42. レチタティーヴォ（テナー）

彼らはイエスを捕らえ、  
祭司長のカイファのもとへと連れて行った。  
祭司長たち、民の長老たちと全ての最高法院の者たちが  
イエスに対して偽りの証拠を求めた、それによって彼を殺すために。

#### 43. レチタティーヴォ（アルト）

野獣のような律法学者たちよ、  
ねじ曲げられた判決を糾せ、  
そうしなければ  
お前たちの転落があることを思え。  
私は見る、悪を意図したその判決は  
お前たち自身を裁くことになった。

Sein Blut wird über uns zum Himmel steigen  
 und wider uns und unsre Kinder zeugen.  
 Vor Zorn und Neid entflamnte Bösewichter,  
 ihr falschen Zeugen, schweigt,  
 denn was ihr wider Jesum zeugt, hat er ja nicht getan;  
 Ach! wie geduldig hört Jesus die mit Gall und Gift benetzte Worte an.  
 Er ist des Todes schuldig.

#### **44. Choral**

Ich danke dir, der du dich lassen hast verklagen,  
 dein heilig Angesicht unschuldig, schmäählich schlagen,  
 weil du verklaget bist, gilt nicht des Satans Klag,  
 weil du geschlagen bist, trifft mich nicht Höllen Plag.

#### **45. Recitativo**

Da speiten sie ihm ins Angesicht und schlugen ihn mit Fäusten.

#### **46. Aria**

*Ohne Tempoangabe, 3/4, E-Dur.*

Wenn mich Neid und Bosheit drücken,  
 laß mich mit gelassnen Blicken,  
 Herr, auf deine Wangen sehn.

Bei dem Speichel frecher Seelen,  
 womit sie mich werden quälen,  
 will ich ohne Rache flehn.

彼の血は私たちを超えて天へと昇り、  
翻って私たちと子供たちに降り掛かる。  
怒りと妬みに燃え立つ悪魔たち、  
偽りの証拠たち、黙るがよい、  
イエスに対してお前たちが証言したことを、彼は何もしていない。  
ああ、どれほどイエスが忍耐強く、憤りに満ちた言葉に耳を傾けていることか、  
彼は死罪に問われている。

#### 44. コラール

私はあなたに感謝します、訴えられたあなたに。  
あなたの聖なる御顔は罪なく、〔それなのに〕不名誉に打たれました、  
あなたが訴えられたが故に、サタンの叫びは意味をなさなくなり、  
あなたが打たれたが故に、私が地獄の苦しみに苛まれることがなくなったのです。

#### 45. レチタティーヴォ

そして彼らは彼の顔に唾を吐き、拳で彼を打った。

#### 46. アリア（アルト）

テンポ指定なし、3/4拍子、ホ長調。  
妬みや悪意が私を押しつぶすとき、  
主よ、あなたの横顔を  
落ち着いた眼差しで見させてください。  
無礼な魂が唾棄によって  
私を苦しめようとしても、  
私は復讐を求めないつもりです。

**47. Recitativo**

Sie bunden ihn, führten ihn hin  
 und überantworteten ihn dem Landpfleger Pontio Pilato.  
 Da nahm Pilatus Jesum und geißelte ihn,  
 und die Kriegesknechte flochten eine Krone von Dornen,  
 und setzten sie auf sein Haupt und legten ihm ein Purpurkleid an.

**48. Accompagnato**

*Adagio, 2/2.*

Ach! Wie erbärmlich sieht mein Heiland aus,  
 der Unbefleckte wird besudelt und befleckt,  
 mit Spott und Hohn bedeckt.  
 O! Welch ein Mensch ist das.  
 Ein dickes Naß  
 von Blut und Speichel untermengt,  
 das durch die dicken Dornen bricht  
 und sich durch den bespritzten Mantel dringt,  
 verstellt sein Angesicht.  
 Erschrockne Seele,  
 dir zugut läßt der Erlöser seinen Rücken  
 zerfleischen und zerstückten.  
 O, fasse glaubensvoll dies Blut  
 und laß dich diese rauhe Dornen,  
 zur unverfälschten Treu anspornen,  
 die du dem Meister allbereits geschworen,  
 als er dich in der Tauf zu seinem Jünger auserkoren.

#### 47. レチタティーヴォ(テナー)

彼らはイエスを捕らえ連れて行き、  
総督のポンシオ・ピラトへと引き渡した。  
ピラトはイエスを引き寄せて鞭打ち、  
部下の兵士たちは茨で冠を編み、  
それを彼の頭に被せ、紫の衣を着せた。

#### 48.〔レチタティーヴォ・〕アッコムパニヤート（ソプラノ）

アダージョ、2/2拍子。  
ああ、我が救世主は何と哀れに見えることだろう、  
汚れを知らないお方が汚され傷つけられる、  
愚弄と嘲笑によって。  
ああ、何という人だろうか、  
血と唾が混ざった  
甚だしい〔彼への〕侮辱は、  
刺々しい茨と  
汚された衣によって〔酷さを増し〕  
彼の顔を歪める。  
怯えた魂よ、  
おまえのために救世主は、彼の背中を差し出した、  
ぼろぼろに傷〔つけられるまで〕。  
ああ、信仰に満ちてその血を忘れず、  
その刺々しい茨で  
変わりなき信義を励ませ、  
主が洗礼で、お前を弟子として選んだ時に、  
そう確かに誓ったとおりに。

**49. Aria**

*Ohne Tempoangabe, 6/8, c-Moll.*

Dornen tragen keine Trauben,  
aber hier brech ich im Glauben  
von den Dornen Trauben ab.

Jede Geißel, jede Rute,  
jeder Dorn in Jesu Blute  
grünt wie Aarons Mandelstab.

**50. Recitativo**

Und da sie ihn verspottet hatten, zogen sie ihm den Mantel aus  
und zogen ihm seine Kleider an und führten ihn hin,  
daß sie ihn kreuzigten.

**51. Recitativo**

O schönes Kreuz, aus dir  
sproßt mit erhöhter Zier  
mein Heil, die Wurzel Jesse für,  
Woran mein erster Vater starb,  
woran er mir den Fluch erwarb,  
daran ist Jesus auch gestorben.  
Hat jener mir den Tod erworben,  
so hat mir der den Segen  
und das Leben  
an einem Stamm gegeben.

#### 49. アリア（ソプラノ）

テンポ指定なし、6/8拍子、ハ短調。

茨が実りをもたらすことはないが、

私は信仰から、

茨から実りを摘み取ろう。

それぞれの鞭〔の苦痛〕、

それぞれの茨がイエスの血によって

豊かにされた、アロンのアーモンドの杖のように<sup>(17)</sup>。

#### 50. レチタティーヴォ（テナー）

こうして彼らはイエスを侮辱すると、衣を脱がせて、

〔また〕服を着せ連れて行った、

十字架に付けるために。

#### 51. レチタティーヴォ（テナー）

おお美しき十字架よ、お前から

高き誉れとともに

我が救済が芽を吹いた、

そこで私の最初の父が死に、

私に恐怖を与え、

またイエスがそこで亡くなられた。

あの方が私に死を命じたので、

〔十字架〕の幹に、

私の幸福と

生涯とを与えた。

## 52. Aria

*Andante, 2/2, d-Moll.*

Dürres Kreuz, an deinem Stamme  
blüht in dem erhöhten Lamme  
meiner Seelen Feigenblatt.

Dein höchst angenehmer Schatten  
kommt deim müden Geist zustatten,  
den der Fluch verfolgt hat.

## 53. Recitativo

Und sie kreuzigten Jesum an der Stätte, die da heißet Golgatha.

## 54. Aria

*Ohne Tempoangabe, 2/2, g-Moll.*

Seele, schwing die Glaubensflügel  
auf den Hügel,  
wo du ganz erbärmlich schön  
siehst die Saaronsrose stehn.

## 55. Recitativo

Erkaufte Seele,  
komm und trete auf Golgota,  
besuche diese Schädelstätte,  
wo dein Erlöser blutend kämpft  
und alle deine Feind dämpft.  
Ach! schau mit heiligem Vergnügen,  
Höll, Fluch und Tod zu Jesu Füßen liegen.

## 52. アリア（テナー）

アンダンテ、2/2拍子、ニ短調。

枯れ果てた十字架よ、お前の幹に  
我が魂の尊き子羊によって  
イチジクの葉が生い茂る。  
あなたの愛しき影が、  
罵られお疲れになった  
その魂を支えます。

## 53. レチタティーヴォ（テナー）

彼らはイエスを、ゴルゴタと呼ばれる場所で十字架につけた。

## 54. アリア（バス）

テンポ指定なし、2/2拍子、ト短調。

魂よ、信仰の翼をひろげて  
その丘へと向かえ、  
そこにはシャロンのバラが咲き、  
たいへん美しい<sup>(18)</sup>。

## 55. レチタティーヴォ（バス）

あがなわれた魂よ、  
来てゴルゴタへ足を踏み入れ、  
このされこうべの丘を訪ねよ、  
そこでお前の救世主は血にまみれて戦い、  
お前の敵全てを打倒した。  
ああ、聖なる喜びとともに見よ、  
地獄、恐れ、そして死がイエスのもとにひれ伏している。

Dies ist der letzte Keltertritt,  
 nun tut dein Heil noch einen Schritt  
 zur Höllen von der Erden,  
 auch diese soll ein Zeuge der Erlösung werden,  
 den blutigen Erlöser sehn  
 und wissen, daß durch ihn das Mittlerwerk geschehn.

### **56. Choral**

Ich will hier bei dir stehen,  
 verachte mich doch nicht.  
 Von dir will ich nicht gehen,  
 wengleich dein Herz bricht.  
 Wann dein Herz wird erblassen  
 im letzten Todesstoß,  
 alsdann will ich dich fassen  
 in meinen Arm und Schoß.

### **57.a Recitativo**

Aber der Übelthäter einer, die mit ihm gekreuziget waren, lästerte ihn, der  
 andre strafte ihn und sprach zu Jesu:  
 Herr, gedenke an mich, wenn du in dein Reich kommst.  
 Und Jesus sprach:

### **57.b Arioso**

*Adagio, 2/2, B-Dur.*

Noch heute, wenn die müde Seele  
 entweicht aus der bangen Höhle,

これが最後の酒ぶねへの挑み<sup>(19)</sup>、  
いまお前の救世主は  
地上で地獄〔の苦しみ〕へと更に歩みを進めている。  
これがまさしく、救済の印となる、  
血にまみれた救世主を見て  
知れ、彼を通して仲介がなされたということ。

## 56. コラール

私はあなたの側におります、  
どうか侮蔑なさらないでください。  
あなたから離れたくありません、  
しかしあなたの心は張り裂けている。  
あなたの心が  
最期の死の衝撃で青ざめるとき、  
私はあなたを  
腕と膝とで抱きとめます。

### 57.a レチタティーヴォ (テナー)

彼と十字架に付けられた者たちのうちの一人は、イエスを罵ったが、もう一人の  
者はその者を非難し、イエスに言った。  
主よ、あなたが御国に行かれるとき、私のことを思い出してください。  
イエスは言った。

### 57.b アリオート (バス)

アダージョ、2/2拍子、変口長調。  
今日にでも、疲れきった魂が  
不安の洞穴から逃れ出たとき、

sollst du mit mir im Paradiese sein.

## 58. Duetto

*Largo, 3/4, Es-Dur.*

Jesu, wirst du zu mir sprechen,  
wann die müden Augen brechen,  
heute sollst du bei mir sein.

Zu dir wird der Heiland sprechen,  
wann dir deine Augen, brechen,  
heute sollst du bei mir sein.

Wenn mein Geist sich nach dir sehnt,  
wenn mein letzter Odem stöhnt,  
ach, so flöß mir dieses ein,  
heute sollst du bei mir sein.

Wessen Geist sich nach ihm sehnt,  
wenn der letzte Odem stöhnt,  
dem flößt seine Liebe ein,  
heute sollst du bei mir sein.

## 59. Recitativo

Danach, als Jesus wußte, daß schon alles vollbracht war,  
daß die Schrift erfüllet würde, spricht Er: Mich dürstet.  
Da lief einer und füllte einen Schwamm mit Essig und tränkte ihn.  
Da nun Jesus den Essig genommen hatte, sprach er: Es ist vollbracht,  
neigte das Haupt und verschied.

お前は私とともに、天国にいる。

## 58. 二重唱（ソプラノ、アルト）

ラルゴ、3/4拍子、変ホ長調。

イエスよ、私に約束してくださいますか、

疲れきった目が閉じた

今日、わたしとともにいてくださると。

お前に救世主は約束される、

お前の目が閉じた

今日、お前は私とともにいると。

私の魂があなたを慕い、

最期の息をしようとする時、

ああ、その〔言葉を〕私に吹き込んでください、

今日、お前は私とともにいると。

ある魂が彼を慕い、

最期の息をしようとする時、

その魂にイエスの愛が吹き込まれる、

「今日、お前は私とともにいる」、と。

## 59. レチタティーヴォ（テナー）

その後、すべてが成し遂げられ、

預言が成就したことをイエスは知っておられたので、こう言われた。「渴く。」

それから一人が走り寄って、酔を吸わせた綿を彼に飲ませた。

彼はその酔を受け取ると、こう言われた。「成し遂げられた。」

〔そして〕頭を垂れて、息を引き取られた。

**60. Recitativo**

Mein Heiland lechzt nach meiner Seele,  
 da alles nun vollbracht,  
 da alle Schrift erfüllet,  
 da er durch sein vergoßnes Blut  
 mir das verlorne Gut,  
 die erste Schönheit widerbracht,  
 will er mit mir sich für seinem Ende noch vermählen.

**61. Accompagnato**

*Ohne Tempoangabe, 2/2.*

Ach schattenreiche Vesperstunde,  
 wie oft hab ich an dich gedacht.  
 Ich sahe nach und nach,  
 so wie des Heilands seine Schmach  
 stieg, die erzürnten Fluten fallen.  
 Nun kommt die Taube,  
 in dem Munde  
 hat sie dies Friedensblatt,  
 das diese angenehme Nachricht hat:  
 Es ist vollbracht.

**62. Aria**

*Ohne Tempoangabe, 3/4, C-Dur.*

Ich suchte bebend meine Liebe,  
 und meines Glaubens reine Triebe  
 erlangten das verheißne Licht,

## 60. レチタティーヴォ(テナー)

我が救世主は私の魂を渴望する、  
今やすべてが成し遂げられ、  
すべての預言が成就され、  
彼は、流されたその血を通して  
失われた良心に代わって  
はじめての美を、私にもたらしてくれたので、  
その最期の時にも、彼は私と結ばれるつもりなのだ。

## 61.〔レチタティーヴォ・〕アツコンパニヤート(テナー)

テンポ指定なし、2/2拍子。  
ああ、影に満ちた晩課の時よ、  
どれほどよく、お前のことを思ったことだろう。  
私は繰り返し見た、  
どのように救世主への屈辱が高まり、  
〔その〕怒りに満たされた潮が汚[い]ていくのかを。  
いまや鳩がやってきて、  
口には  
平和の書をくわえている、  
そこには愛すべき知らせが〔書かれて〕あった、  
「成し遂げられた」と。

## 62. アリア(テナー)

テンポ指定なし、3/4拍子、ハ長調。  
私は震えながら愛を探し求め、  
私の信仰の穢れなき欲求は、  
約束されたその光を手に入れた。

es kam, ach ja, und säumte nicht.

Durch Dorn und Blut drang der Erretter,  
im Tode siegt der Schlangentreter,  
weil Fluch, Gesetz und Altar bricht.

### **63. Accompagnato**

*Ohne Tempoangabe, 2/2.*

Nun gute Nacht,  
geliebter Seelenbräutigam,  
unschuldig totes Lamm,  
man hat dich zwar geschlacht,  
allein nicht nachgedacht,  
daß dein Tod eine Pestilenz  
der Höllen würde sein.  
Du neigst dein Haupt  
und schließtest meine Pein  
und darum schläfstest du ruhig ein.  
Allein, du gehest durchs Geschrei in deine Ruh,  
ich weiß warum, du rufst mir zu,  
da ich dem Tod die Macht genommen  
und du zum Leben durch den Tod gekommen,  
so lebe mir, der ich für dich gestorben,  
und stirb dem, der das Leben dir erworben.

### **64. Choral**

Nun, ich kann nicht viel geben  
in diesem armen Leben.

ああ、それはやって来た、遅れることなく。

茨と血によって救世主は傷つけられ〔だが、〕

死の中で蛇〔の罠にかかった〕その方は勝利する、

なぜなら彼が、呪縛を解き放ち、〔旧来の〕律法と祭壇を壊してくれたのだから。

### 63.〔レチタティーヴォ・〕アツコンパニャート（ソプラノ）

テンポ指定なし、2/2拍子。

さあお休みください、

愛しき魂の花婿、

罪なく死したる子羊よ。

人はあなたを鬻り殺した、

何も考えることなく、

あなたの死が、

地獄の惨禍であったかも知れなかったことを<sup>(20)</sup>。

あなたは頭を垂れて

私の苦しみを終わらせて下さり、

それゆえ静かに床に就かれる。

おひとりで、あなたは〔死の〕叫びを通して、平安へと向かわれる、

知っています、なぜ私をお呼びになるかを。

その死によって私は力を得て、

その死によってあなたは〔新たな〕生へと至られたからです。

あなたの死ゆえに私は生き、

あなたの得られた生ゆえに、私は死ぬ。

### 64. コラール

今や、私は多くを為せません、

この弱き生命では。

Eins aber will ich tun:  
Es soll dein Tod und Leiden,  
bis Leib und Seele scheiden,  
mir stets in meinem Herzen ruhn.

Ich will's vor Augen setzen,  
mich stets daran ergötzen,  
ich sei auch, wo ich sei;  
es soll mir sein ein Spiegel  
der Unschuld und ein Siegel  
der Lieb und unverfälschten Treu.

### **65. Coro**

Durch das Blut, erlöste Seelen,  
werdet jetzo Grabenschöhlen,  
machtet euch zu Fels und Stein,  
leget euer Heil hinein.  
Salbet ihn mit frohen Zähren,  
sein Tod wird nicht lange wahren,  
denn am dritten Morgenschein  
wird er auferstanden sein.

### **66. Choral**

Ich danke dir von Herzen,  
o Jesu, liebster Freund,  
für deines Todes Schmerzen,  
da du`s so gut gemeint.

ですが、ひとつだけ為したいことがあります。

あなたの死と苦しみは、  
肉と魂を分けるまで、  
私の心の中で、常に憩いとなります。

見ているつもりです、  
わたしを喜ばせてくれるそれを。  
いるべき場所に、私もいるつもりです。  
それは私にとって  
無実〔を映す〕鏡であり、  
愛と偽りなき忠義の証です。

## 65. 合唱

血を通して、救済された魂たちよ、  
今こそ、信仰の群れ  
岩、石となって、  
救済の中に身を投げ入れよ、  
幸せな涙とともに、彼に香油を注ごう、  
彼の死は長くは続かない、  
何故なら三日目の朝に、  
彼は復活するからである。

## 66. コラール

私はあなたに心から感謝します、  
おおイエス、最も愛する友よ、  
その死の苦しみ故に、  
なぜならあなたは、それを善きものとされたからです。

Ach gib, daß ich mich halte  
zu dir und deiner Treu  
und, wenn ich nun erkalte,  
in dir mein Ende sei.

Wenn ich einmal soll scheiden,  
so scheid nicht von mir,  
wenn ich den Tod soll leiden,  
so tritt du dann herfür;  
wenn mir am allerbängsten  
wird um das Herze sein,  
so rei mich aus den Ängsten  
kraft deiner Angst und Pein.

Erscheine mir zum Schilde,  
zum Trost in meinem Tod,  
und la mich sehn dein Bilde  
in deiner Kreuzsnot.  
Da will ich nach dir blicken,  
da will ich glaubensvoll  
dich fest an mein Herz drücken.  
Wer so stirbt, der stirbt wohl.

ああ、私はあなたの  
信義の側にいます、  
そして、私が死にゆくとき、  
その終わりはあなたの中にあるでしょう。

いつか〔生と〕別れゆく運命にあったとしても、  
私はあなたからは離れません、  
死に苦しまなければならない時に、  
どうかこちらへ来ててください。  
私の心が  
最も不安な時も、  
私はそれから身を引き離す、  
あなたの苦しみと痛みを糧として。

現れてください、私の死に際して、私の保護者、  
慰めてくださる方として、  
あなたの十字架での姿を  
見させてください、  
あなたを見つめ、  
あなたを信仰に満ちて  
私の心に強く抱きとめたいからです。  
そのように死にゆく者は、幸せのうちに死したる者。

## 註

- (1) イザヤ書、第63章3節。
- (2) ヘブライ人への手紙、第12章2節。
- (3) 創世記、第3章15節。
- (4) ヘブライ人への手紙、第10章7節。
- (5) イザヤ書、第63章1節。
- (6) イザヤ書、第63章1、2節。
- (7) イザヤ書、第63章4節。
- (8) 創世記、第3章15節。
- (9) イザヤ書、第53章11節。
- (10) コロサイの信徒への手紙、第2章14節。
- (11) コロサイの信徒への手紙、第2章9節。
- (12) ヨハネによる福音書、第1章29節。
- (13) ルカによる福音書、第24章46節。
- (14) ルカによる福音書、第18章31節。
- (15) イザヤ書、第63章3節。
- (16) ヘブライ人への手紙、第9章12節。
- (17) 民数記、第17章16～25節。
- (18) 雅歌、第2章1節。
- (19) イザヤ書、第63章3節。
- (20) ホセア書、第13章14節。